



東北大学ビジョン2030 記者会見資料

最先端の創造、大変革への挑戦

「社会とともにある大学」としての東北大学

2018年 11月 27日

東北大学総長 大野 英男



● 東北大学の使命（ミッション）～ 普遍的な指針

- **大学の使命** 東北大学は、一世紀以上の歴史を有する総合研究大学として、研究第一、門戸開放、実学尊重の理念を掲げて指導的人材を育成し、卓越した研究成果を創出して、平和で公正な人類社会の発展に貢献します。
- **伝統校から先導校へ** グローバル化の進展や科学技術の加速的進歩により、前例のない変化に直面する現代社会において、東北大学は「**伝統校**」に甘んじることなく、「**先導校**」としての大胆な挑戦を行って、その建学のミッションを高い次元で達成することを目指します。

● ビジョン策定にあたってのポイント

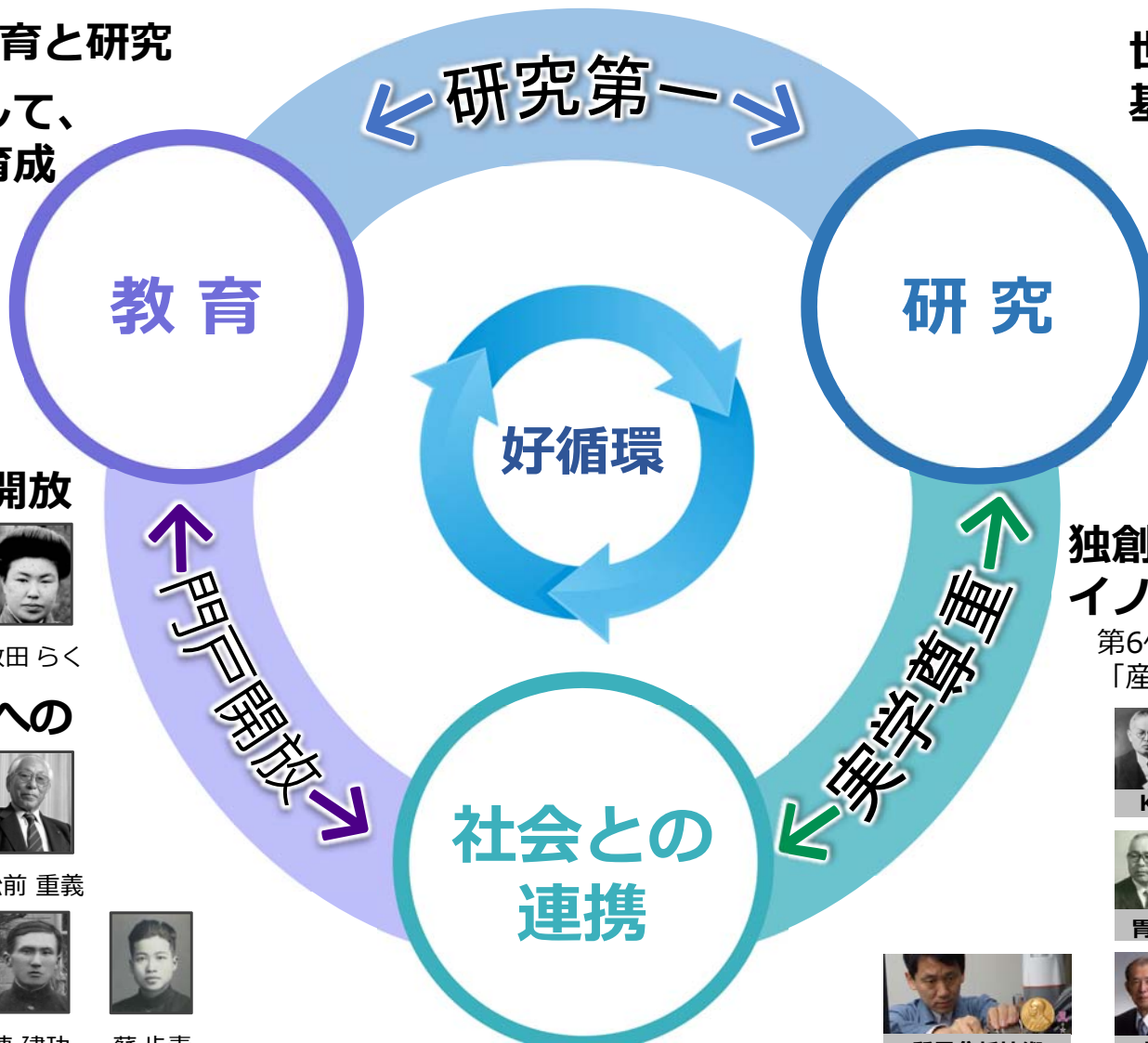
- **ビジョンの位置づけと構成** 本ビジョンは、社会・経済・科学技術が地球規模で連動する世界の将来像を見据え、他大学にはない独自の強みと可能性を見極めたうえで、2030年に向けた東北大学の**あるべき姿・ありたい姿（ビジョン）**と、その実現を目指した**中長期の方針（重点戦略）**、さらには、**具体的なアクション（主要施策）**等を提示するものです。
- **指定国立大学法人にふさわしい経営革新** 本ビジョンは、また、東北大学が2017年6月に**指定国立大学法人**に指定されたことを受け、その先導的役割にふさわしい**経営革新**を通して、新たな大学の姿を目指すものです。



建学の理念「研究第一」、「門戸開放」、「実学尊重」を基盤に
教育・研究・社会連携の好循環を実現

車の両輪としての教育と研究

卓越した研究を通して、
未来を拓く人材を育成



世界的に卓越した
基礎研究の推進



仙台は学術研究に最も向いた
都市であり、東北大学は恐る
べき競争相手
～アインシュタイン、1922

独創的研究成果に基づく
イノベーションの創出

第6代総長本多光太郎
「産業は学問の道場なり」



KS鋼・新KS鋼



八木・宇田アンテナ



胃がん集団検診



半導体レーザー



質量分析技術



垂直磁気記録



コンパクト

女子学生への門戸開放



黒田チカ 丹下ウメ 牧田らく

専門学校・師範学校への
門戸開放



茅誠司 松前重義

留学生への
門戸開放



魯迅 陳建功 蘇步青

民間および自治体等からの
多額の寄附により創設・発展



Vision 1 教育

- 学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成

21世紀を先導する地球市民（未来を構想し、その実現に挑むフロントランナー）として、文化や価値観の多様性を積極的に受けとめ、卓越性への情熱を持って先端的知識を探求・総合し、未知なる価値の創造を通して大変革時代の社会を先導できる人材を育成します。

主要施策数：12

Vision 2 研究

- 世界三十傑大学にふさわしい総合研究大学として、卓越した学術研究を通して知を創造するとともに、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を力強く推進

「研究第一」の伝統を基盤として、深い学術的理解を追究する卓越した基礎研究を推進します。さらに、若い才能を惹きつける知の創造拠点を形成し、特色ある分野で世界トップレベルの研究力を発揮するとともに、時代を画する新たな学問領域の開拓とイノベーションの創出を一層強力に進めます。

主要施策数：12

主要施策数：21

Vision 4 経営革新

- 卓越した教育研究を基盤として社会とともに成長する好循環の確立のため、大学経営を革新

教育、研究、社会との共創の好循環をより高い次元で実現するために、大学ガバナンスの開放性・透明性を高め、日本および世界の多様なステークホルダーと本学構成員との共創を促す環境を整備するとともに、持続的発展を見据えた包括的ロジスティクスと戦略的マネジメントを確立します。

Vision 3 社会との共創 (Co-Creation)

産学共創

- 社会とともにある大学として、多様なセクターとのパートナーシップのもと、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導

知の創造・継承・活用が社会の発展の基盤となる「知識基盤社会」における本学独自の社会連携（Public Engagement）を不断に追求するとともに、卓越した知を基盤とする社会価値創造を通して、持続可能で豊かな未来社会へ向けた変革・イノベーションを先導します。

主要施策数：12

社会連携

主要施策数：9



Vision 1 教育

学生の挑戦心に応え、創造力を伸ばす教育を展開することにより、大変革時代の社会を世界的視野で力強く先導するリーダーを育成します

重点戦略	主要施策
重点戦略① 社会の転換期を生きる学生の創造力を伸ばす教育の展開	<ol style="list-style-type: none"> 1. 未来社会に立ち向かうための基盤となる学士課程教育の新構築 2. あらゆる境界を越え、創造的で活力ある研究者・高度専門人材を育成する大学院教育の展開 3. パーソナライズドラーニングをはじめとする先進的ICT教育の推進 4. エビデンスに裏付けられた新たなアドミッションの展開 5. 豊かな経験を通じた、人格形成を促す課外活動・社会貢献活動の充実
重点戦略② 社会とともにある大学としての教育の新展開	<ol style="list-style-type: none"> 6. 卓越した研究を基盤とした産学共創教育の展開 7. 社会人の学び直しの機会を提供する新たなリカレント教育の展開
重点戦略③ 国際共修キャンパスの創造	<ol style="list-style-type: none"> 8. 世界から学生を惹きつける最先端の国際プログラムの開発・提供 9. オープンでボーダレスなキャンパスにおける国際共修の展開 10. 卓越した研究を基盤とした国際共同教育の深化
重点戦略④ 包括的学生支援の展開	<ol style="list-style-type: none"> 11. 様々な背景を持つ学生が安心して、ともに学ぶインクルーシブな環境の提供 12. 学生へのキャリア支援・経済支援の充実



THE
世界大学ランキング
日本版

第**3**位

朝日新聞
大学ランキング
高校からの評価 総合評価

第**1**位

就職四季報
プラスワン
生徒を伸ばしてくれる大学

第**1**位

2017年

2006～2016年まで
11年連続 **1**位



日経
カレッジカフェ
人事が採用したい大学

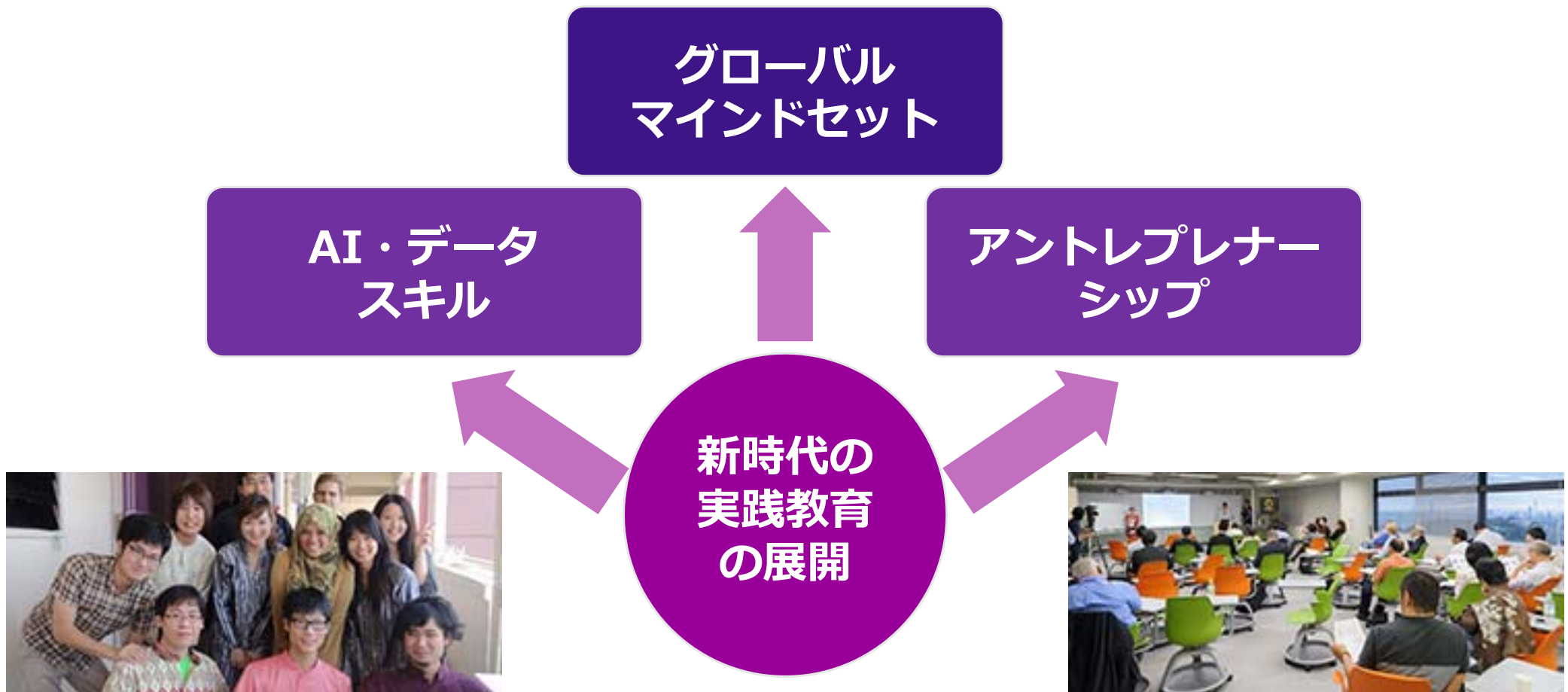
第**1**位

2018年



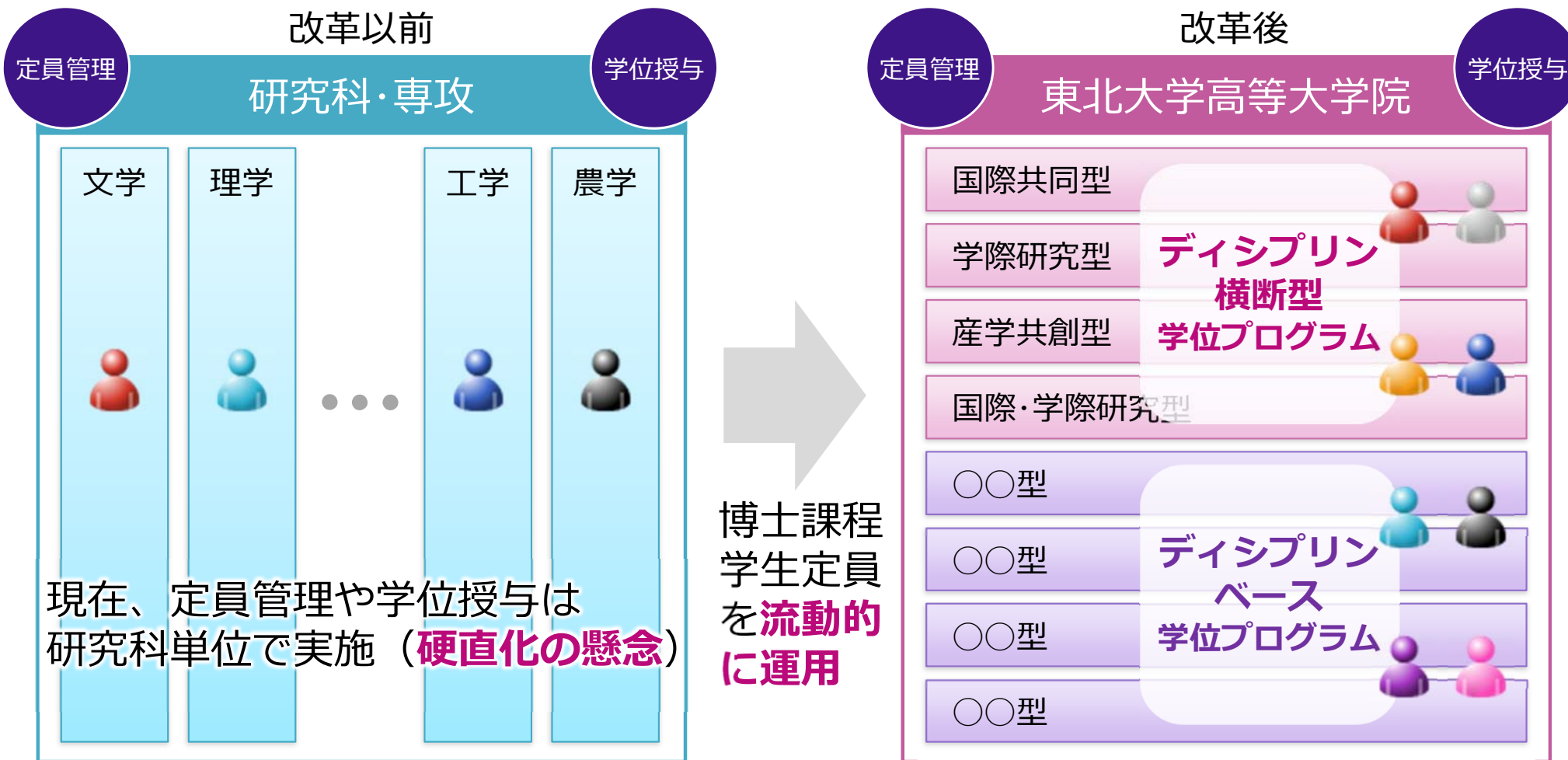


- 変革期に生きる学生のための新たな全学教育プログラムとして、
「東北大学挑創カレッジ」を2019年度より開講
- 時代が要請する①グローバルマインドセット、②AI・データスキル、
③アントレプレナーシップを身に付けるための実践教育を展開
- 学生の「挑戦する心」に応え、大きく伸ばすプログラムを開発





- すべての大学院教育プログラムを学位プログラムへ進化
- 学位プログラム全体を管轄する組織として「東北大学高等大学院」を創設



国際共同大学院プログラム 海外有力大学との強い連携のもと共同教育を実践することによりグローバルに活躍する人材を育成

リーディングプログラム 第一級の教員・学生を結集し、俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたり活躍するリーダーを育成

卓越大学院プログラム 民間企業等と連携し、社会にイノベーションをもたらす高度な「知のプロフェッショナル」を育成

「未来型医療創造」と「人工知能エレクトロニクス」が2019年度よりスタート
文科省事業「卓越大学院プログラム」、東北大学は採択件数全国1位（全国で15件採択）



Vision 2 研究

世界三十傑大学にふさわしい総合研究大学として、卓越した学術研究を通して知を創造するとともに、新たな学問領域の開拓とイノベーション創出を力強く推進します

重点戦略	主要施策
重点戦略⑤ 未来の価値創造への挑戦	13. 自由な発想に基づく基礎研究の推進および新興・分野融合研究の開拓 14. 世界トップレベル研究の推進 15. 世界の学術におけるフロンティア領域の開拓・先導 16. 持続可能で豊かな未来社会の実現に向けた社会課題解決への挑戦
重点戦略⑥ 世界三十傑大学にふさわしい研究システム変革	17. 「高等研究機構」を頂点とした横断的分野融合研究を戦略的に推進するための三階層「研究イノベーションシステム」の構築 18. 大型研究施設等を積極的に活用した戦略的研究連携の推進 19. 社会システムを構想・提案し、政策科学を先導するシンクタンク機能の強化 20. 文化・学術資源の世界発信と人文系研究分野の国際拠点化
重点戦略⑦ 次代を担う卓越した若き才能の育成・支援	21. 独創性豊かな若手研究者を世界各地から惹きつける場の創出
重点戦略⑧ 卓越した学術研究を追求するための環境基盤の整備・充実	22. ダイバーシティの推進による開かれた研究環境の整備 23. サバティカル制度等の戦略的活用による頭脳循環の促進 24. 多様な研究力を引き出す研究支援機能の充実・強化



研究論文に着目した 日本の大学ベンチマーキング 被引用数の国内大学ランキング

材料科学
第**1**位

地球科学
第**2**位

神経科学・行動学
第**3**位

物理学
第**3**位

薬学・毒性学
第**3**位

※ 科学技術・学術政策研究所（NISTEP）
「研究論文に着目した日本の大学ベンチマーキング2015」より大学のみを
抜粋し、東北大学が上位3位以内に入る
分野を掲載

2017年度 科学研究費補助金 新規採択件数

第**3**位

全細目数 351

科学研究費補助金 採択件数上位実績 1位の細目の例

- 金属物性・材料 第**1**位
- 電子デバイス・電子機器 第**1**位
- 機械材料・材料力学 第**1**位
- 計算機システム 第**1**位
- 無機材料・物性 第**1**位
- 地球・資源システム 第**1**位
- 化学系薬学 第**1**位

ほか全23細目

※ 文部科学省「平成29年度科学研究費助成事業の配分について」
細目別採択件数（過去5年の新規採択の累計数）による順位

科学研究費補助金 採択件数上位実績 人文社会系の細目の例

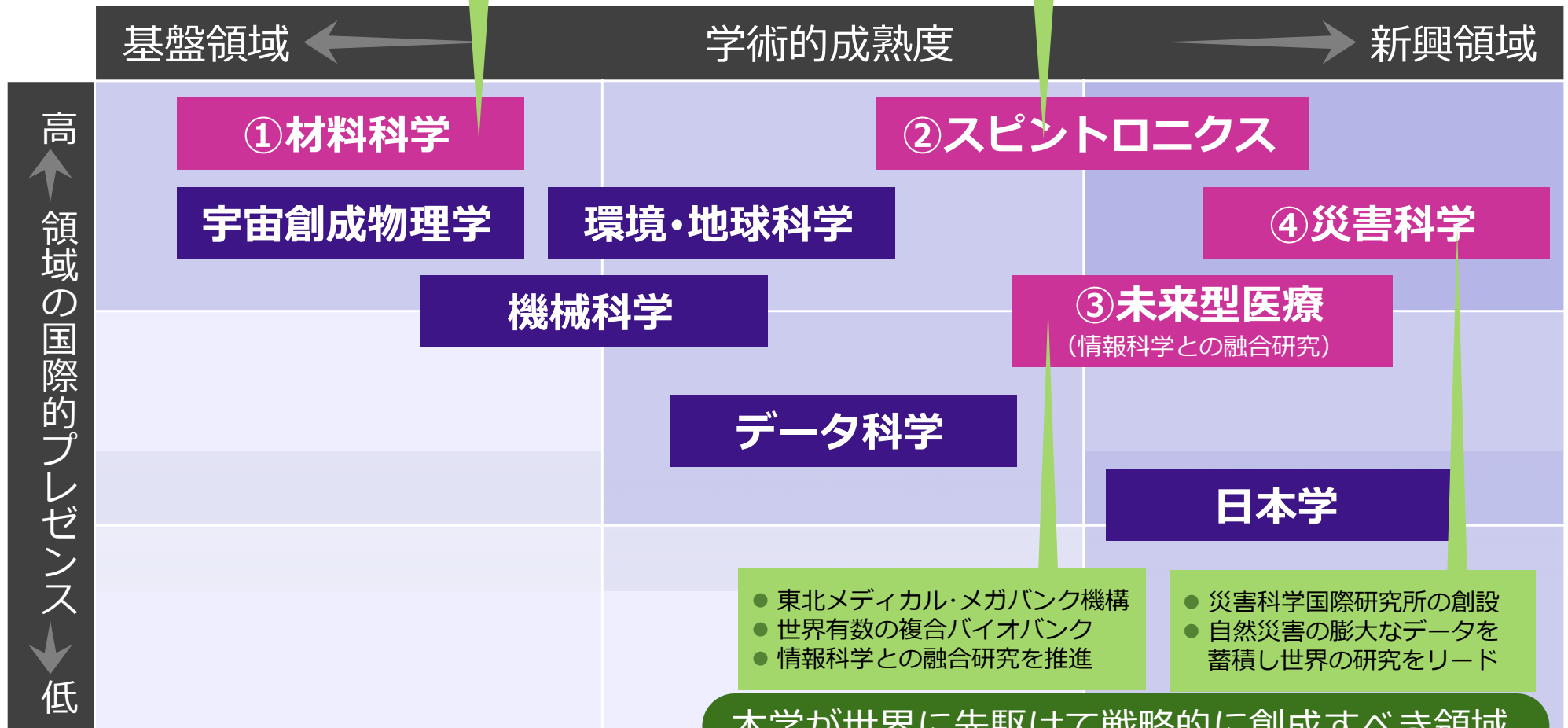
- 英語学 第**1**位
- 経済学説・経済思想 第**1**位
- 教育心理学 第**1**位
- 英米・英語圏文学 第**3**位
- 宗教学 第**3**位
- ヨーロッパ史・アメリカ史 第**3**位
- 中国哲学・印度哲学・仏教学 第**3**位
- 思想史 第**3**位



- 世界トップレベル研究拠点として4領域を選定し重点的に整備
- 本学が強みを有するその他5領域を加えた9領域に国際研究クラスターを創設

すでに世界最高のポテンシャルを有する領域

- 本学が伝統的に強い学術分野
- 圧倒的な研究者層の厚み
- 異分野との融合研究を展開
- 磁性半導体やスピン流などの基礎研究から応用研究まで
- 世界のパイオニアとして認知



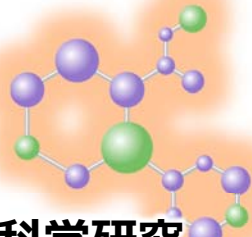
- 東北メディカル・メガバンク機構
- 世界有数の複合バイオバンク
- 情報科学との融合研究を推進

- 災害科学国際研究所の創設
- 自然災害の膨大なデータを蓄積し世界の研究をリード

本学が世界に先駆けて戦略的に創成すべき領域



材料科学



AIMR、金属材料研究所、多元物質科学研究所等を中心とした卓越した研究成果により「材料科学」の主要分野で世界をリード

- 世界最大規模の研究者群：約400名体制
- Top1%論文55編、Top10%論文436編（2006-2016）
- 国際共著論文比率：55.7%（AIMR）ほか
- 次世代放射光施設（本年7月決定）の活用

未来型医療



東北メディカル・メガバンク機構による世界初の大規模3世代コホート調査の展開と未来型医療への貢献

- 出生3世代コホート約7万人
- 地域住民コホート約8万人
- 15万人規模のゲノム・オミックス情報を保有し、HPCによる大規模解析を実現
- 個別化医療、個別化予防の研究展開

スピントロニクス



世界のスピントロニクス研究を名実ともに先導し、集積エレクトロニクスの未来を拓く国内外産学連携を推進

- 関連分野論文総数304編（世界3,555編）
- Top1%論文64編（世界トップと並ぶ4.1%）
- スピントロニクス分野において出願人別特許件数(79件)は学術機関の世界1位

災害科学



文理を融合させた新たな学際研究領域として、「災害科学」を世界に先駆けて開拓するとともに、東日本大震災の経験を世界発信

- 論文総数（2014-2017）：災害科学（世界2位）、津波関係（世界1位）、災害医療（世界1位）、災害教育（世界1位）
- 国連開発計画(UNDP)と連携し、災害統計グローバルセンターを2015年4月に設置



「高等研究機構」を頂点とした三階層「研究イノベーションシステム」の構築

目的 ● 戦略的な研究拠点形成の加速 ● 横断的分野融合研究の推進

↑
戦略性

若手研究者を約200人規模で配置

高等研究機構
世界最高の研究成果を創出する
世界トップレベル研究拠点を形成

- **世界トップレベル研究拠点**の形成
本学が特に強みを有する4領域：
①材料科学 ②スピントロニクス
③未来型医療 ④災害科学

↓
多様性

分野融合研究アライアンス
専門領域の壁を超えた分野融合研究を推進

- 分野融合研究を通じた新領域創成のための多様な施策パッケージの創設
- ✓ **国際研究クラスター**（国際共同大学院を併設し教育と両輪で国際連携）
- ✓ **学際研究重点拠点**
- ✓ **社会にインパクトある研究**など

各部局における基盤研究
将来の基幹分野の種となる多様な研究活動を
構成員の自由な発想に基づいて推進

- 自由な発想に基づく優れた研究を促す支援策および環境の整備



整備費用の概算総額:約360億円程度
(想定される国の分担:最大約200億円程度)

- 次世代放射光施設に係る文科省発表 (2018年7月3日)
- 官民地域パートナーシップによる次世代放射光施設の推進に関し、一般財団法人光科学イノベーションセンターを代表機関とする、同財団、宮城県、仙台市、国立大学法人東北大学、及び一般社団法人東北経済連合会をパートナーとして選定
 - 次世代放射光施設の整備・運用の検討を進める国の主体である量研とパートナーとの間で、同施設の整備・運用に関する詳細を具体化するための検討・調整を開始



Vision 3 社会との共創 (Co-Creation)

社会とともにある大学として、多様なセクターとのパートナーシップのもと、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導します

Vision 3 – 1 産学共創

Vision 3 – 2 社会連携

Vision 3 – 1 産学共創

重点戦略	主要施策
重点戦略⑨ 東北大学独自の戦略的産学共創の展開	25. 戦略的産学共創の展開① 「ビジョン共創型パートナーシップ」に基づく「組織」対「組織」による大型の産学共創の加速 26. 戦略的産学共創の展開② 東北大学流オープンイノベーションの戦略的展開 27. 戦略的産学共創の展開③ 次世代放射光施設を活用した科学技術イノベーション創生 28. 戦略的産学共創の展開④ 日本の枠を越えた産学共創のグローバル展開 29. 戦略的産学共創の展開⑤ 地域イノベーションの加速的推進
重点戦略⑩ 東北大学発ベンチャーの創出と次世代アントレプレナーの育成	30. 東北大学発ベンチャー創出の加速 31. グローバルに通用するアントレプレナー（起業家）の育成・支援
重点戦略⑪ 本学の戦略的産学共創を支える抜本的機能強化	32. 産学共創ポリシーに基づく強化戦略の実行 33. アンダー・ワン・ループ型産学連携拠点（産学共創スクエア）の構築 34. 知的財産創出、技術移転、事業化に至る一気通貫の知的財産マネジメント機能の強化 35. 戦略的産学連携経費の創出 36. リニアモデルにとらわれない新たなイノベーション創出体制の構築



外国企業との
共同研究費受入額

第 **1** 位

ランニングロイヤリティ
収入があった特許権数

第 **1** 位

民間企業との
共同研究費受入額

第 **4** 位

大学発
ベンチャー企業数

第 **3** 位

※出典
2017年度大学等における
産学連携等実施状況について（文部科学省）

※出典
特別企画：大学発ベンチャー企業の実態調査
2018年2月23日(株)帝国データバンク



B-U-B (Business-University-Business) 型連携

大学を核として、異分野の多企業が参画するイノベーションエコシステム形成型産学連携モデル

- 従来の産学連携は、主として個別企業と個別研究者との小規模な共同研究が中心
- スピントロニクス分野のオープンイノベーション拠点「東北大学国際集積エレクトロニクス研究開発センター (CIES)」は、独自に発案したB-U-B型連携により世界に先駆けた実績
- この先進モデルをライフサイエンス分野、マテリアルサイエンス分野等へ戦略的に展開したい



「東北大学オープンイノベーション戦略機構」の創設 (2018年12月活動開始)

川上から川下までの約20社によるイノベーションエコシステム形成

米国半導体関連企業との連携
外国との共同研究費受入額 第1位



約30億円の先端研究施設の民間寄附



大学が生み出す世界トップレベルの研究

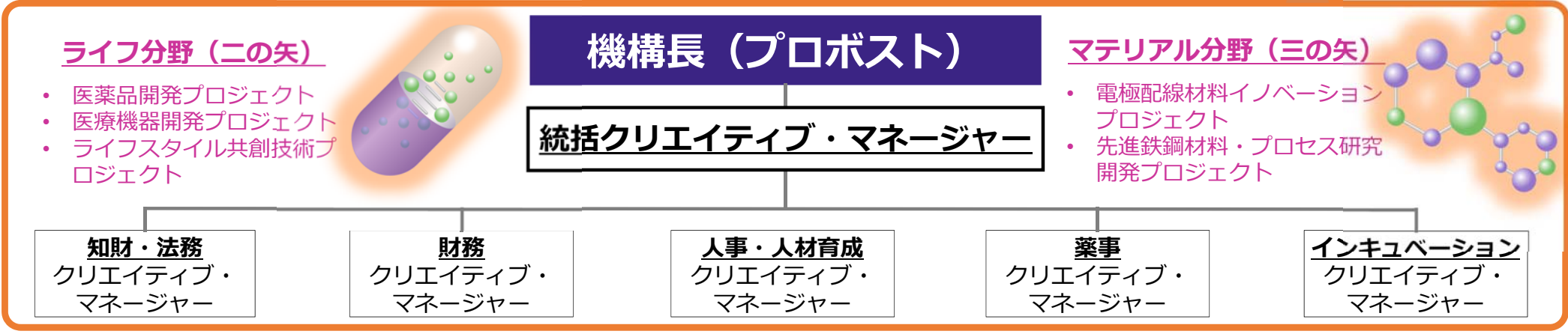
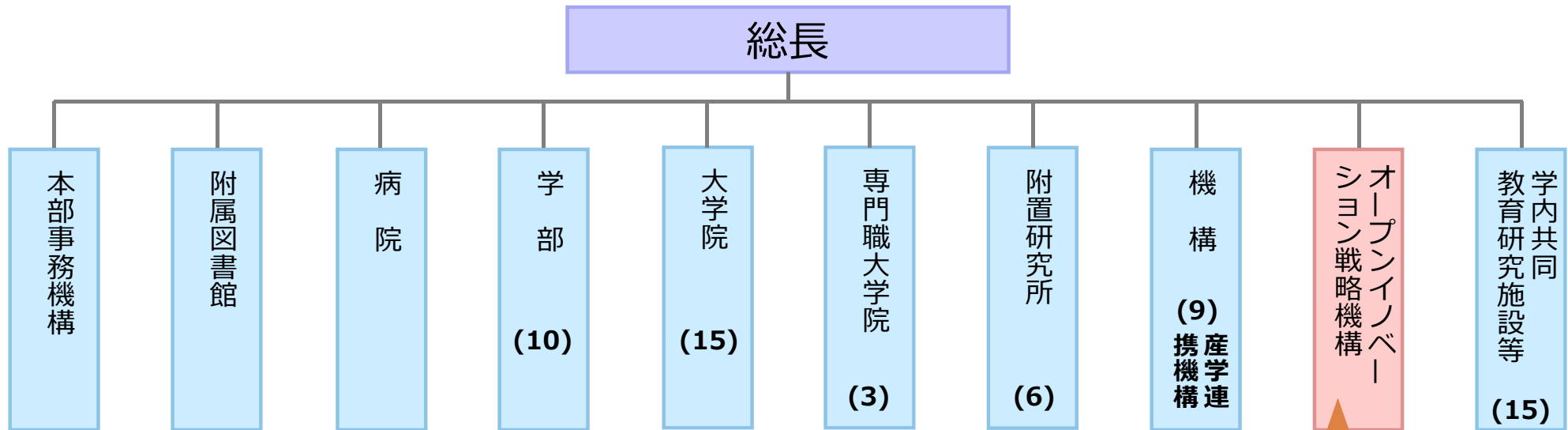
- 世界に先駆けたスピントロニクスの開拓
- 革新的な不揮発メモリ素子の発明
- 新たな超低消費電力化技術の開発

国・自治体と連携した税制特区制度

- 民間投資促進特区 (情報サービス関連産業) 制度による法人税の減免
- 先端研究機器への固定資産税等相当額の助成



- **総長直下に設置**し、オープンイノベーションに係る予算・執行管理、資産管理、人事、共同研究契約、機密保持契約、知的財産管理、利益相反マネジメント等の管理権限を機構に付与
- **全学的な決定権を有するプロボスト**を機構長に配置、機動的なトップセールスを実現
- **民間からプロフェッショナル人材（クリエイティブ・マネージャー）を採用**し、自立的・一体的で迅速な意思決定による経営と先駆的な取り組みが可能な体制を確立





Vision 3 社会との共創 (Co-Creation)

社会とともにある大学として、多様なセクターとのパートナーシップのもと、新たな社会価値を創造し、未来を拓く変革を先導します

Vision 3 – 1 産学共創

Vision 3 – 2 社会連携

Vision 3 – 2 社会連携

重点戦略	主要施策
重点戦略⑫ 「社会とともにある大学」としての社会連携の強化	37. 「東北大学オープンカレッジ（仮称）」を中心とした知識基盤社会における新たな社会連携の確立 38. 知の波及を可能にする地域や世界に開かれた交流の場の提供 39. 校友ネットワークを核とした活力ある東北大学コミュニティの形成 40. 東北大学ブランドを高めるための戦略的広報の強化
重点戦略⑬ 「門戸開放」の理念に基づくダイバーシティ&インクルージョンの推進	41. ダイバーシティ&インクルージョンを尊重する「共同参画」体制の構築
重点戦略⑭ 震災復興から持続可能な社会創造を見据えた新たな課題解決型研究の展開	42. 東北大学復興アクションの着実な遂行と災害復興新生研究機構プロジェクトの再編・展開 43. 国内外の市民社会、教育機関、産業界、行政機関等との連携による被災地域復興への貢献 44. 国内外への積極的な復興活動・成果の発信 45. 持続可能な社会の実現に向けた課題解決型プロジェクト「社会にインパクトある研究」の推進



「社会にインパクトある研究」の全学的推進

- A) 持続可能環境の実現 (5)
- B) 健康長寿社会の実現 (5)
- C) 安全安心の実現 (4)
- D) 世界から敬愛される国づくり (5)
- E) しなやかで心豊かな未来創造 (4)
- F) 生命と宇宙が拓く交換する未来へ (2)
- G) 社会の枢要に資する大学 (5)

※ () 内は、全学のプロジェクト数

「東北大学版SDGs活動」の推進・発展により、
持続可能な人類社会の創造に貢献



2030

東北大学版SDGs活動

2017.6

「指定国立大学法人」に指定

- ◆ 重要な社会課題の解決を目的とした分野横断・学際研究を展開
→ **社会にインパクトある研究**
- ◆ 復興・新生に向けた重点研究を推進
→ **東北大学復興アクション**

2017

2017.11 東北大学
「第1回世界防災フォーラム」への参画

2015.9 国連
持続可能な開発目標SDGs
(Sustainable Development Goals)
17の目標を採択

2015.3 東北大学
「第3回国連世界防災会議」への参画

2011.11 東北大学
「国連アカデミック・
インパクト」へ参加
原則9「持続可能性の
推進」支持を表明

2015

2015.7
「社会にインパクトある研究」開始

- ◆ 7つの重点テーマ (A~G) を設定
- ◆ 全学体制で30プロジェクトを推進

発展

原点

2011.4

災害復興新生研究機構設置

- ◆ 8つの大型プロジェクトを推進
- ◆ 「東北大学復興アクション100+」を推進

2011

2011.3.11
東日本大震災発生

東北大学の教育研究基盤
社会に貢献する多様な分野

- 再生可能エネルギー
- 省エネ技術
- 森林保護
- 伝染病対策
- 海洋資源保護
- ダイバーシティ
- 子供の教育
- 貧困・環境汚染・紛争対応
- 地球環境変動への対策
- その他、多様な分野



- 第1版：2012.5
- 第2版：2012.10
- 第3版：2013.6
- 第4版：2014.7
- 第5版：2015.3
- 第6版：2016.7
- 第7版：2017.12



第2回世界防災フォーラム（WBF）

- 2019年11月9日～12日にかけて、仙台で開催することを正式決定
(2018年11月25日付公式発表)
- 「仙台防災枠組 2015-2030」による防災戦略などを協議



仙台で開催する第2回WBFの成功を期し、握手する（左から）今村教授、アマン代表、小野教授

東北大学SDGsシンポジウム

- 2018年12月21日（金）に、仙台で開催することを正式決定
- SDGsの達成に向けて、日本として、政府として、あるいは大学、地域、企業、市民として何ができるか、とりわけ、災害の経験も踏まえ、世界にどのような発信ができるか、それぞれの立場から議論



国谷 裕子 くによひろこ

キャスター、東京藝術大学理事 / 慶応義塾大学特任教授
米ブラウン大学卒。NHK 衛星放送「ワールドニュース」のキャスターを経て、1993年から2016年までNHK「クローズアップ現代」キャスター。現在、SDGsの取材・啓発活動を行なっている。自然エネルギー財団理事、国連食糧農業機関親善大使も務めている。02年菊池寛賞、11年日本記者クラブ賞受賞。著書に「キャスターという仕事」（岩波新書）。



Vision 4 経営革新

卓越した教育研究を基盤として社会とともに成長する好循環の確立のため、大学経営を革新します

重点戦略	主要施策
重点戦略⑮ 社会に信頼され、力強く社会価値を生み出す機動的経営体制の確立	46. 大学のミッションを遂行するための多様かつ柔軟な人事システム改革の実行 47. 大学経営力強化のためのガバナンス改革 48. 人的リソースの最適配置による事務組織等の再構築および分析・支援ツールを活用した大胆な業務改革の実行 49. 多様な働き方の実現と適正な労働時間管理の実施 50. コンプライアンスを重視した経営の実践 51. 情報環境の最適化と情報セキュリティ強化
重点戦略⑯ 強固な財務基盤の確立	52. 外部資金獲得強化を大学全体のパフォーマンス向上に繋げる新たな学内配分システム等の確立 53. アセットマネジメントセンター等を活用した資産の有効活用の強化 54. 戦略的ファンドレイジングの展開と支援者とのネットワーク強化 55. 戦略的な産学共創による民間共同研究収入の拡大
重点戦略⑰ 戦略的な国際協働の深化	56. 世界から尊敬される三十傑大学としての国際協働の戦略的推進 57. セクションの壁を越えて全学一体となった包括的国際化の推進



重点戦略	主要施策
<p>重点戦略⑱ 多様な価値観が交流する社会に開かれたキャンパスの整備</p>	<p>58. 国内最大規模のサイエンスパーク等を活用した社会共創の加速 59. ダイバーシティ&インクルージョンを尊重した先進的キャンパス環境の実現 60. 多様なステークホルダーにとって魅力あるアカデミックパークとしてのキャンパスの実現 61. 革新的な建物等整備手法による開かれたキャンパス整備</p>
<p>重点戦略⑲ 世界のライフイノベーションや未来型医療を先導する病院機能の強化</p>	<p>62. ライフサイエンス分野における戦略的産学共創の展開とIoT・AI・ビッグデータを活用した新規医療イノベーションの創出 63. 未来型医療を牽引するグローバル・ハブとしての病院機能強化 64. 強固で安定した経営基盤の確立と安全で高度な最先端医療の提供 65. 患者にとって安心・安全で利便性の高い病院環境の整備 66. 医療の高度化や働き方改革など様々な社会の要請に応える病院運営と人材戦略の展開</p>



現状

総長選考方式

- 学内選挙を廃止
- 学外の有識者も含めた総長選考会議による決定

理事・部局長の 評価

達成目標を明示した
評価の導入
(勤勉手当に反映)

全学機構改革

40組織を9機構に
再編・統合

総長裁量経費

国立大学最大規模
(2018年：65億円)

教員ポストの 再配置

総長のリーダーシップ
による部局間の異動
を実施

2030年に向けて

東北大学版プロポストを設置 (2018年4月設置)

全学的な教学における重点施策や戦略的教員人事に関する一定の予算配分権及び執行権を付与

自己収入強化による総長裁量経費財源の拡大

間接経費の増加などを通じて総長裁量経費の拡大 (120億円：2倍) を目指す

寄附金収入の拡大

年間 **120** 億円：3倍

戦略的な産学連携による
民間共同研究費収入の拡大

年間 **165** 億円：5倍

保有資産 (現金・不動産・研究用
機器) の優位性を活用した
資産運用等収入の拡大

年間 **20** 億円：10倍



THE世界大学ランキング

The Times Higher Education World University Rankings 2018-2019

国内

3位

世界

251-300位



QS世界大学ランキング

QS World University Rankings 2018-2019

国内

5位

世界

77位

QS World University Rankings by Subject (published 2018)

Materials Sciences	23位	Engineering - Mechanical	30位
Physics & Astronomy	35位	Engineering - Chemical	46位
Languages	51-100位	Engineering - Civil & Structural	51-100位
Engineering - Electrical & Electronic	51-100位	Pharmacy	51-100位
Chemistry	51-100位		



Nature Index 2018

国内

4位

世界

66位



The World's Most Innovative Universities 2018

国内

4位

世界

36位



Nature Index 2018 Top 200 science cities

国内

5位

世界

90位



東北大学は、創造と変革を先導する大学として、ここに掲げる取組を確実に実行することにより教育・研究・社会との共創の好循環を実現し、未来へ向けた社会変革を力強く先導します

